

# 大分県立芸術文化短期大学のあり方について 報告書

平成26年3月26日

大分県立芸術文化短期大学あり方検討委員会

委員長 御手洗 康

## 目 次

I	はじめに	2
II	芸術文化短期大学を取り巻く現状と課題	3
1	芸術系公立短大としての特徴	3
	(1) 全国唯一の芸術系公立短大	
	(2) ユニークな学科構成	
	(3) 進路選択の多様性と県内就職の充実	
	(4) 低廉な授業料できめ細かな指導体制	
	(5) 優れた立地環境	
2	時代や地域の要請と大学の持つ課題	5
	(1) 少子高齢化、価値観の多様化への対応	
	(2) 地域貢献への期待	
	(3) グローバリゼーションの進展	
	(4) 芸術文化ゾーンとの連携	
	(5) 施設の老朽化とアピールできる教育環境の整備	
III	芸術文化短期大学の魅力アップを図るための今後の方向性	8
1	教育機能の充実強化	8
	(1) 魅力あるカリキュラムへの再編充実	
	(2) 芸術緑丘高校との連携強化	
	(3) 芸術文化ゾーンと連携した実践教育の充実	
	(4) 国際化に対応した教育の充実強化	
	(5) ものづくりや観光・サービス産業に寄与できる芸術文化人材の育成	
2	地域貢献・芸術文化ゾーンとの連携	11
	(1) 生涯学習講座の充実強化	
	(2) 芸術文化や情報メディア分野における地域づくりへの貢献	
	(3) 観光や国際交流分野等における新たな地域づくりへの貢献	
	(4) 芸術文化ゾーンとの連携による地域の芸術文化のレベル向上	
3	機能充実のための施設整備	13
	(1) 魅力を高めるために新設が必要な施設	
	(2) 機能強化のために改修が必要な施設	
	(3) 交流と自然に配慮した環境整備	
IV	結びに	14

## I はじめに

大分県立芸術文化短期大学（以下、「芸文短大」という。）は、昭和36年の開学以来、52年の歴史を有し、芸術系の美術科・音楽科と人文系の国際総合学科・情報コミュニケーション学科を併設する、全国唯一の芸術系公立短大として、地域に根ざした芸術文化人材の育成や地域貢献活動に取り組んでいます。

一方、大学を取り巻く環境は、少子高齢化の進行やグローバル化の進展、産業構造の変化などによって大きく変化しています。それに伴い、大学に対する社会のニーズもますます多様化しており、平成24年に文部科学省が公表した「大学改革実行プラン」では、新しい大学づくりに向けた改革の推進や、地域再生の核となる大学づくりが求められています。

大分県においては、平成27年春には、県立美術館が開館予定であり、県立総合文化センターと併せた芸術文化ゾーンをネットワークの核として、国東半島芸術祭や別府アルゲリッチ音楽祭、大分アジア彫刻展の開催など、県内各地における芸術文化による地域づくりの機運が広がりつつあります。

このような状況を踏まえて、現行の芸術系公立短大としての特徴を活かしたうえで、教育研究機能の更なる充実強化を図っていくための企画運営と施設のあり方について、「大分県立芸術文化短期大学あり方検討委員会」を設置して、幅広く検討を重ねてきました。

委員会では、全国で唯一の芸術系公立短大であること、同一のキャンパス内に県立芸術緑丘高校が設置されていること、さらに、県立美術館と県立総合文化センターと併せた芸術文化ゾーンが創造されることなどを活かして、「1 教育機能の充実強化」、「2 地域貢献・芸術文化ゾーンとの連携」、「3 機能充実のための施設整備」について、次のとおり報告書としてまとめたところです。

## Ⅱ 芸術文化短期大学を取り巻く現状と課題

### 1 芸術系公立短大としての特徴

#### (1) 全国唯一の芸術系公立短大

芸文短大は、全国で唯一の芸術系公立短大であり、北海道をはじめ、関東や関西など全国各地より学生が集まっています。

##### ○公立短大の状況

・全国の公立短大数	19校(全国の短大数	359校)
・うち芸術系の公立短大数	1校(全国の芸術系短大数	41校)
・芸文短大生の出身地	28都道府県(平成25年度)	
・県外出身の学生数	413名(全学生の47%(平成25年度))	

#### (2) ユニークな学科構成

芸文短大は、美術科と音楽科の芸術系学科に加え、人文系の国際総合学科と情報コミュニケーション学科が併設されたユニークな学科構成となっています。

また、共通教育科目では、学科の枠を超えて、芸術系・人文系それぞれの特徴的科目が履修可能で、学生の多様なニーズに対応しています。

##### ○事例

・学科を超えた教育科目の履修 例えば、美術科の学生が、国際総合学科の国際関係やビジネス実務等を学び、人文系の学生が、音楽科のオーケストラリハーサル現場を学ぶなど。
・平成25年度の学科再編 国際文化学科を国際総合学科に改編し、国際コミュニケーション・観光マネジメント・現代キャリアの各コースを新設。また、美術科に、ビジュアル・メディア・プロダクトの各デザインコースを設置。

#### (3) 進路選択の多様性と県内就職の充実

芸文短大卒業生の進路としては、製造業からサービス業、美術・音楽関係など、県内外の幅広い職種へ就職しているほか、地元大分大学など4年制大学への編入学、また、認定専攻科(造形・音楽専攻)へ進んだ後、就職または大学院へ進学するなど、学生の希望に合わせて、多様な進路選択が可能となっています。

○進路状況（平成24年度卒業生411名の進路）

・就職者数	191名（47%）
・4年制大学への編入学者数等	76名（18%）
・専攻科進学者数	48名（12%）
・その他（自営、語学留学、就職希望者等）	96名（23%）

就職については、就職者の約80%が県内企業等に就職しており、県の重要な人材育成輩出拠点となっています。

また、県外出身者の就職者のうち、約40%が大分県内に就職しており、県外からの若者の流入・定着に貢献しています。

○就職者の内訳（平成24年度卒）

・大分県出身者のうち県内就職者	129名（県内就職率97%）
・県外出身者のうち県内就職者	24名（県内就職率41%）

（4）低廉な授業料できめ細かな指導体制

芸文短大の授業料は、4年制国公立大学より低く設定しているとともに、奨学金や授業料免除の制度もあり、経済的環境が困難な学生にも十分に対応しています。

○授業料

・4年制国立大学の標準額	年535,800円
・芸文短大	年390,000円

また、学生の技能や能力向上のため、担任制や少人数ゼミにより、きめ細かな指導体制がとられているとともに、卒業後の進路を決めるための支援体制も整っています。

（5）優れた立地環境

芸文短大から北西側に近接する大分駅周辺エリアは、再開発が進み、新たな商業施設や文化施設ができるとともに、駅から芸文短大へのアクセスの利便性も向上しています。

一方、キャンパスの立地する丘陵地は、市民から親しまれる上野の森として、自然環境と調和した落ち着いた雰囲気有しており、教育の場として恵まれた環境となっています。

○アクセス・周辺施設

・大分駅から徒歩15分に立地
・芸術文化ゾーン（県立美術館・県立総合文化センター） 大分市美術館、ホルトホール大分など市中心部の文化施設に近接

## 2 時代や地域の要請と大学の持つ課題

### (1) 少子高齢化、価値観の多様化への対応

少子化の進展に伴い、18歳人口は全国的な減少傾向にあり、大学にとって、継続的な学生の確保が、今後の大きな課題となっています。一方、人々の芸術文化に対する価値観が多様化しており、そこから生じる様々なニーズに対応する必要があります。このため、大学の教育研究やカリキュラムの更なる充実拡大など、大学の魅力アップに向けた改革が求められています。

また、高齢化の進展に伴い、高齢者の芸術文化に接する意欲が高まってきています。芸術系と人文系を併せ持つ芸文短大では、その特性を活かした社会人講座や生涯学習の充実が期待されています。

#### ○18歳人口と高齢者数（65歳以上）の推移

(18歳人口)				
・平成10年	全国	162万人	大分県	1.6万人
・平成24年	全国	119万人	大分県	1.2万人
		(27%減)		(25%減)
-----				
(高齢者数)				
・平成10年	全国	2,051万人	大分県	25.2万人
・平成24年	全国	3,079万人	大分県	32.5万人
		(50%増)		(29%増)

### (2) 地域貢献への期待

平成24年6月に文部科学省が公表した「大学改革実行プラン」では、社会との関わりの中で、新しい大学づくりに向けた改革の推進が掲げられており、特に、地域再生の核となる大学づくりが求められています。

芸文短大は、県立の短期大学としての存在価値が求められており、幅広い教養と優れた能力を有する人材を地域に輩出していくとともに、県の芸術文化の振興や地域づくりに資する活動を行うなど、地域貢献に対する大きな期待が寄せられています。

#### ○地域活動（平成25年度）

- |                                 |
|---------------------------------|
| ・竹田サテライトキャンパス（地域交流会、キャンパスクラフト展） |
| ・地域巡回演奏会（臼杵市、日田市）               |
| ・地域ふれあいアート講座（津久見小学校）            |

### (3) グローバリゼーションの進展

芸文短大では、国際コミュニケーション教育の充実を図るため、ネイティブ教員により、英語や中国語、韓国語等の語学や国際文化理解に取り組むとともに、アメリカ、イギリス、韓国等の海外の大学における短期の語学実習も行われるなど、多様な価値観に対応し活躍することができるグローバル人材の育成を積極的に行っています。

#### ○海外大学との連携

- |                  |               |
|------------------|---------------|
| ・ソウル市立大学校（韓国）    | （平成19年覚書締結）   |
| ・江漢大学（中国）        | （平成21年交流協定締結） |
| ・東国大学校・国際語学院（韓国） | （平成25年覚書締結）   |

#### ○留学や交流活動（平成24年度実績）

- |  |
|--|
| ・カリフォルニア大学デビス校（アメリカ）語学実修、ボランティア体験／13人  |
| ・エセックス大学（イギリス）語学実修／7人                  |
| ・高麗大学（韓国）語学実修、文化体験／10人                 |
| ・サヴォア大学（フランス）語学実修／15人                  |
| ・クライストチャーチ・ポリテクニク工科大学（ニュージーランド）語学実修／6人 |

社会経済のグローバル化が進む中、外国人観光客の受入れや国際的に通用する地域産業の振興のために、国際感覚を持った人材の育成が必要であるとともに、国際展開のできるデザイナーが求められているなど、アジアをはじめとした国々との国際交流や国際間競争に対応できるグローバル人材の育成が必要となっています。

### (4) 芸術文化ゾーンとの連携

平成27年春に開館予定の県立美術館と県立総合文化センターによる芸術文化ゾーンは、本県の芸術文化の中心拠点として、「出会いと融合、そしてネットワーク」をキーワードに、芸術文化団体をはじめ、教育、産業、福祉、医療など様々な分野の団体等と連携することで、社会的、経済的な地域課題に対応していくことが求められています。

このネットワークの中で、県内唯一の芸術系大学である芸文短大は、芸術文化ゾーンとの連携を一層強化していくことにより、教育研究活動の活性化を図るとともに、地域の芸術文化人材の育成を担っていく必要があります。

#### ○大分県芸術文化ゾーン創造委員会検討結果報告書より抜粋

県立芸術文化短期大学をはじめとする大学等からインターンシップの受入れなどを行う。また、大学等との連携を一層強化していくため、ホールや美術館のスタッフと大学の教員との人事交流なども検討する。
--

## (5) 施設の老朽化とアピールできる教育環境の整備

現在の施設や設備は、老朽化や狭隘化が著しく、教育研究の充実を図り、今後の学生確保のためにも、対外的にアピールできるキャンパスの環境整備が急務となっています。

### ○施設の状況

・美術棟、デザイン棟、芸術棟	・・・・・・・・	昭和49年9月建築、築39年6月
・音楽棟、事務棟	・・・・・・・・	昭和50年3月建築、築39年
・体育館	・・・・・・・・	昭和53年3月建築、築36年
・人文棟	・・・・・・・・	平成4年3月建築、築22年

オーケストラなど大人数で演奏等を行うことができる屋内ホールの整備や、これまでの専攻科の設置やコース・カリキュラムの再編に対応した講義室や練習室など、最低限必要な施設を整備していくことが必要であるとともに、芸術文化系の高等教育機関にふさわしいキャンパスレイアウトや外観にしていくことも課題です。



### Ⅲ 芸術文化短期大学の魅力アップを図るための今後の方向性

少子高齢化の進展や芸術文化ゾーンとの連携など、芸文短大を取り巻く現状と課題に対応していくため、カリキュラムの充実や芸術緑丘高校との連携など、「1 教育機能の充実強化」を図っていくとともに、「2 地域貢献・芸術文化ゾーンとの連携」を強化し、「3 機能充実のための施設整備」を行うことにより、芸文短大の魅力アップを早急に図っていくことが必要です。

#### 1 教育機能の充実強化

芸術文化分野の専門人材や、社会の要請に応じた人材を育成するため、常にカリキュラムを検証し、必要に応じて、カリキュラムの新設や再編など、教育機能の充実強化を図ることが必要です。

##### (1) 魅力あるカリキュラムへの再編充実

###### ① 新たな専門分野の導入や充実強化

少子高齢化・価値感の多様化に対応していくため、学生に魅力的なカリキュラムの導入や、多様な価値観に対応した幅広いカリキュラムの編成など、新たな専門分野の導入や充実強化を行う必要があります。

###### ○事例

- ・ 人気の高まっている吹奏楽分野の教育機能の充実強化（音楽科）
- ・ 地域の伝統文化や産業を取り入れることによる教育科目の充実（音楽科、美術科）
- ・ 地域で活躍できる社会人力養成を目的とした、地域ビジネスや心理スポーツなどへのコース再編（情報コミュニケーション学科）

###### ② サービスラーニングの新たな展開

地域活動への学生の積極的な参加を組み入れた教育（サービスラーニング）については、主に竹田サテライトキャンパスにおいて、ミニコンサートやキャンパスクラフト展などに取り組んでいますが、今後は、新たな地域での展開を図っていくほか、市町村や商店街、地場企業等との連携による実践型の教育を行うなど、新たな視点による展開を図ることが必要です。

## (2) 芸術緑丘高校との連携強化

### ①高校から大学までの一貫教育

芸文短大に隣接する芸術緑丘高校は、音楽科と美術科を有しており、更なる連携強化を図っていくことが重要です。

高校から芸文短大の5年間、専攻科を含めると7年間を通じて、一貫した芸術系の専門教育が受けられる効果的なプログラムづくりが必要であり、高校と連携したカリキュラムの構築に取り組む必要があります。

そのため、芸術緑丘高校に、芸文短大教員による専門科目の授業やレッスンを取り入れていくほか、芸文短大生と高校生による、美術作品の合同発表会や、音楽の合同演奏会を実施するなど、カリキュラム内容の充実を図ることが必要です。

さらに、高校生が芸文短大の科目を受講して芸術緑丘高校の単位になるとともに、芸文短大進学後は、そのまま芸文短大の単位になるようなカリキュラムの連携についても検討することが必要です。

### ②施設・設備の相互利用

芸文短大と高校が同じ敷地内にあることから、更なる教育環境の充実を図っていくため、それぞれの有する施設や設備の相互利用を効果的に図っていくことが必要です。

## (3) 芸術文化ゾーンと連携した実践教育の充実

### ①表現力の向上を図る教育の場

「1回の本番は、100回の練習に勝る」と言われるように、質の高い音と空間を有する芸術文化ゾーンを、芸文短大生の表現力の向上を図る教育の場として活用していくことが重要であり、美術・デザイン展やオーケストラ、吹奏楽の演奏会等を積極的に開催することが必要です。

### ②展示会や演奏会を通じた実習の場

芸文短大のカリキュラムとして、芸術文化ゾーンにおいて開催される展示会や演奏会を通して、その行事の企画段階から、案内、舞台美術、音響照明、会場運営、展示など、高いレベルの技術を習得するなど、より実践的なアートマネジメント教育の充実強化を図ることが必要です。

### ③インターンシップの推進

芸術文化に関わる貴重な就労体験を行うことで、将来の進路選択に大きな効果が期待できるため、県立美術館や県立総合文化センターにおけるインターンシップの充実を図っていくことが必要です。

#### (4) 国際化に対応した教育の充実強化

##### ①国際コミュニケーション能力を高める取組

グローバル人材の育成のため、ネイティブ教員による語学教育の充実や学生の海外留学支援など、様々な価値観に対応でき、自分たちの独自性も主張できる、国際コミュニケーション能力を高める教育内容を更に充実強化していく必要があります。

##### ②海外の大学との連携

海外における生活や文化、言語の習得など実践的な教育機能を充実させるため、海外の大学との連携強化、拡充を図っていくことが必要です。

これまでも、中国の江漢大学や韓国のソウル市立大学など連携しながら、教員や学生の相互交流、共同美術展・演奏会の実施などが行われていますが、更に、海外の芸術系大学などとの新たな交流や連携を検討していくことが必要です。

#### (5) ものづくりや観光・サービス産業に寄与できる芸術文化人材の育成

ものづくり産業にかかる地場企業や県産業科学技術センターと連携して、例えば、商品開発におけるプロダクトデザインやパッケージデザインの共同開発を行うなど、実践的なデザイン等の実習教育の充実強化を図っていくことが必要です。

また、観光地域づくりや観光マネジメント等、観光業の実務に役立つ教育の充実強化を図るほか、経営・マネジメント教育の充実強化などにより、サービス産業等の企業で即戦力となる人材育成に取り組む必要があります。

## 2 地域貢献・芸術文化ゾーンとの連携

地域社会のニーズに応え、開かれた大学として地域に広く学習の機会を提供するとともに、地域における各種の活動への参加により、芸術文化の専門性や若者の活力を活かした地域づくりへの積極的な貢献を図る必要があります。

その際、国等の関連事業を積極的に活用する必要があります。

### (1) 生涯学習講座の充実強化

多様化する学びのニーズに対応するため、ピアノや声楽、陶芸や木工の講座など、芸文短大の専門性や特徴を活かした公開講座を拡充していく必要があります。

また、各年代層をターゲットとした講座編成を行っていくほか、各地域における出前講座にも取り組んでいくことが必要です。

### (2) 芸術文化や情報メディア分野における地域づくりへの貢献

#### ① サテライトキャンパスの充実

芸文短大では、竹田市の廃校跡に設置しているサテライトキャンパスにおいて、芸術文化を通じた地域との交流活動などに取り組んでいます。このように地域の活性化に資するため、サテライトキャンパスの新たな地域での展開や活動内容の充実を図っていく必要があります。

#### ② アウトリーチ活動の推進

芸文短大生による演奏会や展示会、ワークショップの開催を、県内各地域に拡充して、地域の小中学生が、本格的な演奏などと触れあう機会を増やしていくなど、芸術のアウトリーチ活動を進めていく必要があります。

また、地域で活動する芸術文化団体と協同して芸術プロジェクトに参画し、芸術による地域理解と地域活性化を進めていく必要があります。

#### ③ 商店街等との連携

これまで、大分市内の商店街におけるオブジェ制作、夏祭りや音楽祭の運営参加など、商店街等と連携した取り組みを行っていますが、県内の他の地域の商店街等とも連携を図っていくことにより、商店街をはじめ地域の新たな賑わいの創出を進めていくことが必要です。

### (3) 観光や国際交流分野等における新たな地域づくりへの貢献

観光分野では、国際総合学科の観光マネジメントコースの新設を契機に、地域の観光素材や観光ルートの調査研究などに取り組んでいくほか、国際交流分野では、海外におけるボランティア活動の実践に取り組んでいくなど、新たな分野における地域への貢献活動を進めていく必要があります。

### (4) 芸術文化ゾーンとの連携による地域の芸術文化のレベル向上

#### ①アートマネジメント能力の向上

アート関係者を対象に、県立美術館や県立総合文化センターと連携した人材育成の企画運営を行い、アートマネジメント能力の向上を図るための実践的な教育の場を提供していくとともに、地域のアートマネジメントについて、教員・学生を含めた芸文短大の人材を積極的に活用していくことが必要です。

#### ②ワークショップの開催

子どもから様々な世代を対象として、芸術文化ゾーンと連携し、美術では、作品鑑賞や絵画・工芸作品制作などのワークショップを行ったり、音楽では、オーケストラやミュージカル、オペラなど演奏・演劇にかかる作品解説や実演するワークショップを開催していく必要があります。

#### ③人事交流

美術館の学芸員やホールのスタッフが、芸文短大に来て、授業を行ったり、芸文短大の教員が、美術館の講演会での講師やパネリスト、ホール演奏会での解説者として、美術館やホールのイベントを支援していくなど、相互の人事交流を進めていく必要があります。

### 3 機能充実のための施設整備

以上のように、教育機能の充実強化や地域貢献の拡充を図っていくため、老朽化と狭隘化の著しい芸文短大の施設については、新築や改修を含め、早急に計画的な整備を進める必要があります。

その際、芸術系公立短大としての優れた特徴を活かし、学生等が使いやすく魅力的な施設にするうえで、次のキャンパスコンセプトにより整備を進めていくことが重要です。

#### ○キャンパスコンセプト

1. ゾーニングによる機能的なキャンパスづくり
2. 芸術文化の香り高いキャンパスづくり
3. 自然環境と景観に配慮したキャンパスづくり
4. 芸文短大と芸術緑丘高校が交流・連携を図りやすいキャンパスづくり

#### (1) 魅力を高めるために新設が必要な施設

多機能な音楽ホールの新設をはじめ、芸術デザイン棟、福利厚生施設の新設（建替）が必要です。

##### ①多機能な音楽ホールの新設

オーケストラや吹奏楽、オペラ等の音楽系の専攻において重要な技能の練習・発表の場として、300人収容規模の音楽ホールを有する施設を新設する必要があります。

音楽ホールとしての利用に加えて、美術・デザイン等の作品展開催や、国際・情報関係の講演会やフォーラム会場などとしての機能も併せ持つ、新たな芸文短大のシンボリック施設とすることが必要です。

##### ②芸術デザイン棟の新設

美術科デザインコースにおいて、パソコンをはじめ、3Dプリンターやレーザーカッター等の導入に十分対応できる施設の必要性が高いことや、公開講座等の拡充に併せて講義室の増設の必要があることなどを考慮して、既存デザイン棟及び芸術棟を取壊し、IT環境に対応した芸術デザイン棟を新設することが必要です。

##### ③学生に魅力のある福利厚生施設の新設

既存の福利厚生施設の老朽化に伴い、ゆとりあるスペースのある施設の整備が求められています。既存の施設を取壊し、学生が利用しやすい、レストラン、カフェ、売店の機能を有する芸術系大学にふさわしい魅力ある福利厚生施設を新設することが必要です。

## (2) 機能強化のために改修が必要な施設

### ①音楽棟の大規模改修

個人練習が重要な要素である音楽棟では、老朽化のための大規模改修に併せて、専攻科が新設されたために、個人練習室が不足しているため、相当数の練習室の増設を含めた改修が必要です。

### ②美術棟の大規模改修

美術棟では、老朽化のための大規模改修に併せて、専攻科が新設されたために不足している美術実習室の増設が必要です。

### ③老朽化施設の大規模修繕

事務棟、体育館、工房をはじめ、附帯する構内道路や駐車場、排水設備や空調設備等、40年近く経過した施設や設備については、計画的な大規模修繕を実施していく必要があります。

## (3) 交流と自然に配慮した環境整備

### ①交流広場の新設

芸文短大と芸術緑丘高校の交流・連携を図りやすくするため、キャンパスの中心に広場を設け、シンボルツリーや彫刻を設置する等、交流広場を新設する必要があります。

### ②自然豊かで良好な文教空間の創設

上野の森に連なる自然豊かな環境を更に魅力的なものとするため、また、良好な文教空間を創設するために、既存の樹木を出来るだけ残すとともに、建物の配置、デザイン、植栽計画や景観に十分配慮する必要があります。

## IV 結びに

報告書でまとめた「芸文短大の今後の方向性」は、芸文短大の教育研究の充実と、今後の学生確保や魅力アップに欠かせない内容であり、「1 教育機能の充実強化」と「2 地域貢献・芸術文化ゾーンとの連携」については、今後の芸文短大の年度計画・中期計画、大学運営等に反映されていくことを期待します。また、「3 機能充実のための施設整備」については、引き続き、基本構想の策定を行い、早急に具体的な整備計画が策定されることを期待します。

◎委員会での検討経過

回	開催日	議題
第1回	平成25年 8月23日	①大分県立芸術文化短期大学の現状と課題 ②公立短大としての魅力の発揮と人材育成のあり方 ③施設整備のあり方
第2回	平成25年11月22日	①今後のあり方の骨子について ・現状と課題 ・今後の方向性
第3回	平成26年 3月25日	①今後のあり方についてのまとめ (報告書案のとりまとめ)

◎委員名簿

氏名	職名等	備考
大倉紀子	(株)ジャンヌマリー代表取締役	
是永幹夫	ホルトホール大分統括責任者	
御手洗康	(公財)教科書研究センター副理事長	委員長
安波治子	富士屋 Gallery <small>はなやもも</small> 一也百代表	
和田久継	三和酒類(株)代表取締役(大分県立芸術文化短期大学理事)	
中山欽吾	大分県立芸術文化短期大学理事長	
塩川也寸志	大分県企画振興部長	
畔津義彦	大分県土木建築部長	
野中信孝	大分県教育長	

9名



## 大分県立芸術文化短期大学あり方検討委員会設置要綱

### (設置)

第1条 県立美術館の開館を控え、県立芸術文化短期大学に求められている芸術文化人材育成や芸術文化ゾーンとの連携等のあり方を検討するため、「大分県立芸術文化短期大学あり方検討委員会」（以下「検討委員会」という。）を設置する。

### (所掌事項)

第2条 検討委員会は、以下の事項について検討する。

- (1) 公立短期大学にふさわしい人材育成のあり方
- (2) 施設整備のあり方
- (3) その他芸術文化人材の育成に関し必要な事項

### (組織)

第3条 検討委員会は、別表1に掲げる委員をもって組織する。

- 2 検討委員会に委員長を置く。
- 3 委員長は、委員の互選によって選任する。
- 4 委員長は検討委員会を代表する。

### (会議)

第4条 検討委員会の会議は委員長が、必要に応じて招集し、その議長となる。

- 2 委員長は、必要に応じて、委員以外の者を出席させることができる。

### (設置期間)

第5条 検討委員会の設置期間は、平成26年3月31日までとする。ただし、必要に応じて延長することができる。

### (事務局)

第6条 検討委員会の事務局を大分県企画振興部政策企画課に置き、必要な事務を行う。

### (雑則)

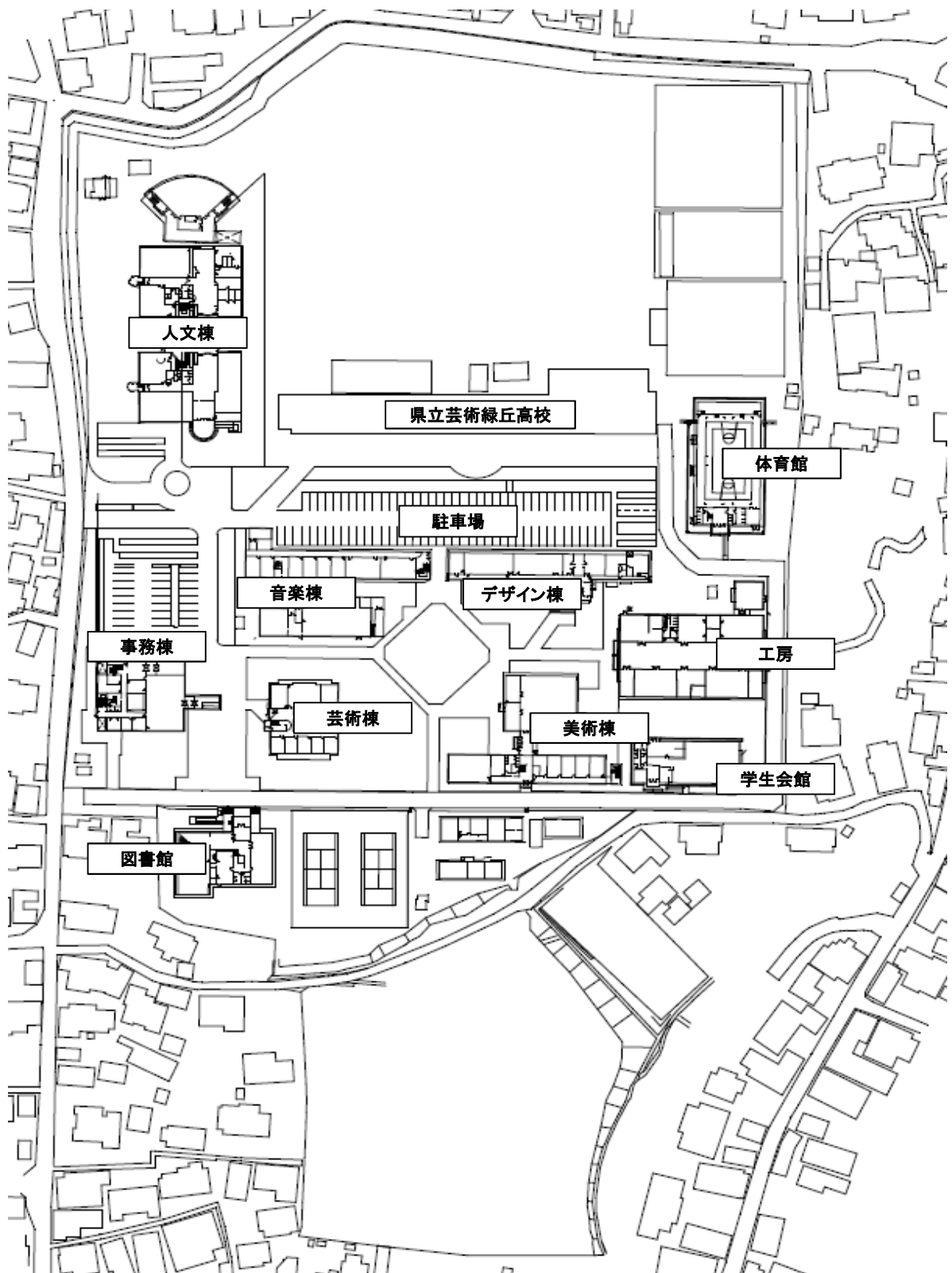
第7条 この要綱に定めるもののほか、検討委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

### 附 則

この要綱は、平成25年7月17日から施行する。

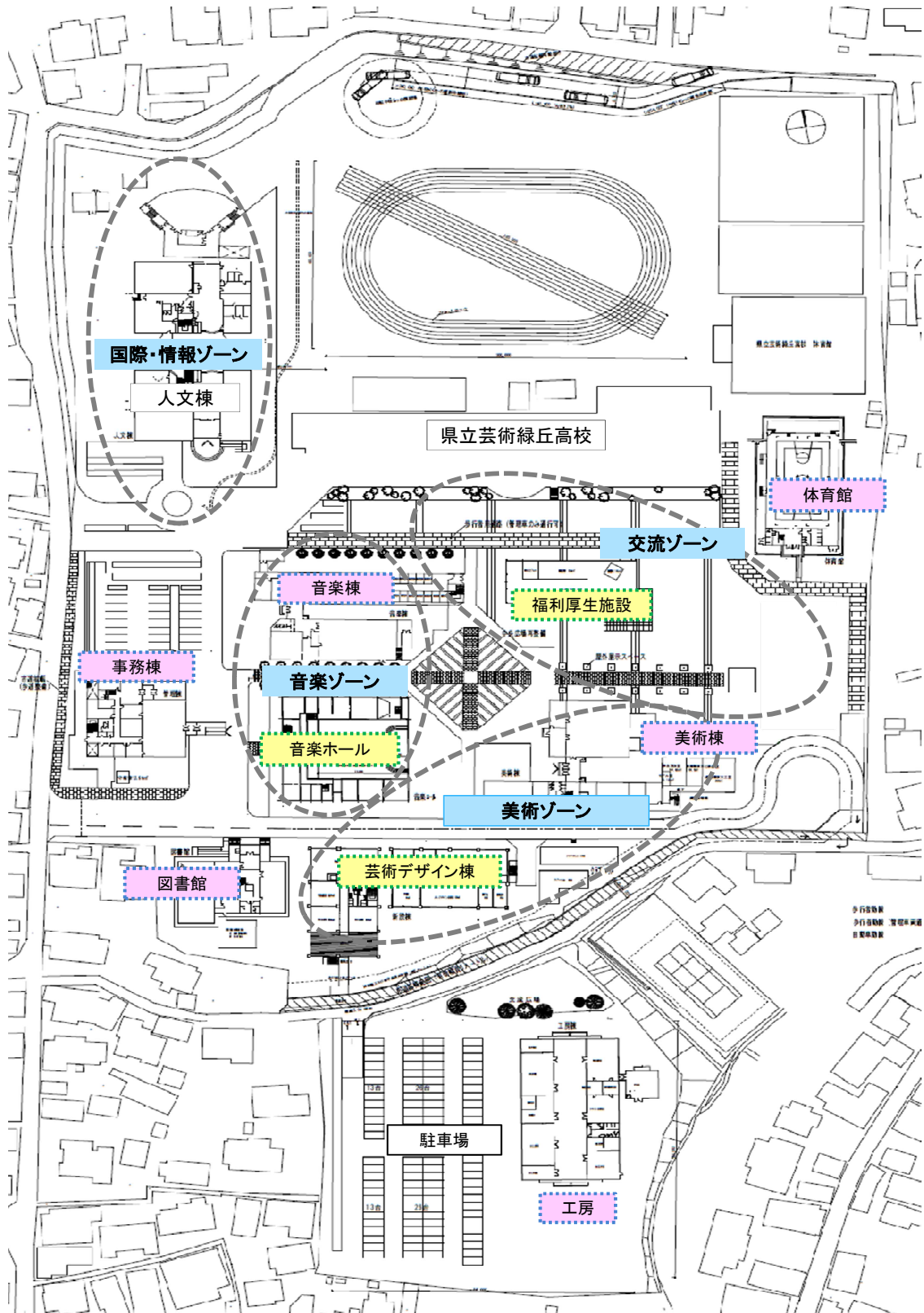
(参考)

## 芸術文化短期大学 キャンパス現況図



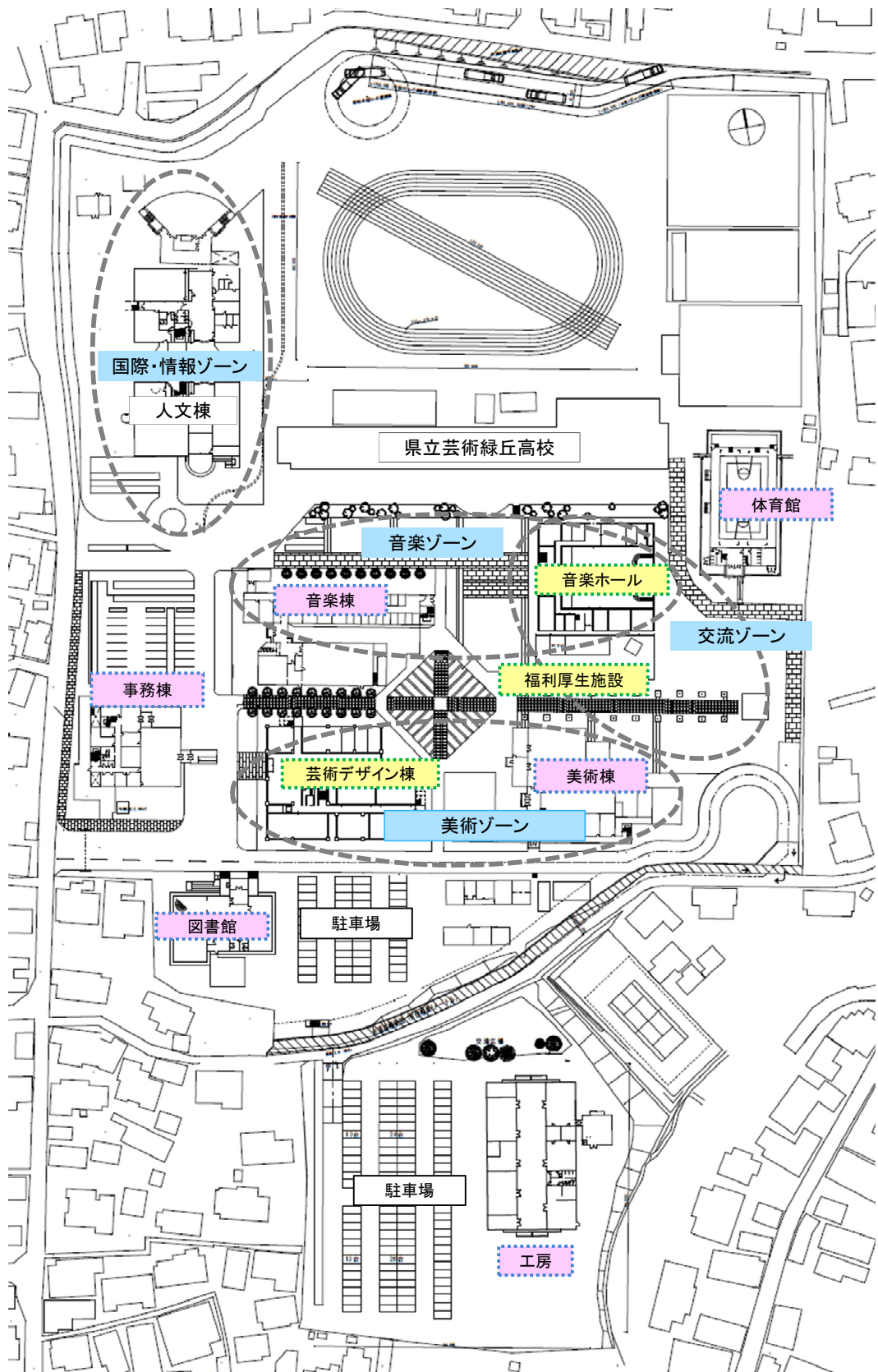
(参考)

# 芸術文化短期大学 キャンパスイメージ①



(参考)

## 芸術文化短期大学 キャンパスイメージ②



新設が必要な施設

改修が必要な施設